

森林管理署長等語る！

中越森林管理署署長 澤井良一

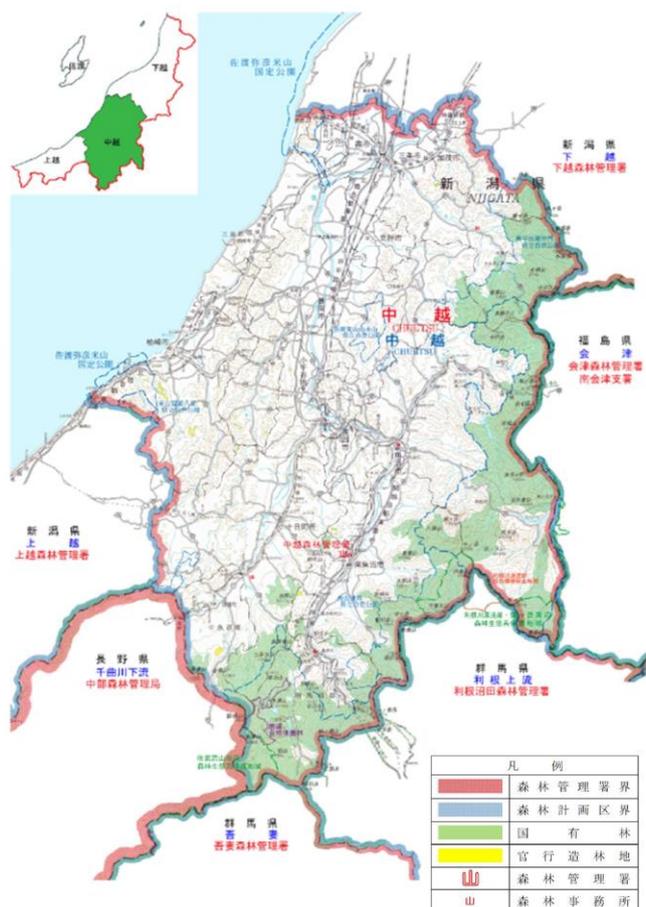
1 当署の概要

(管轄区域)

中越森林管理署は、新潟県の中央部に位置する約 50 万 ha のエリアを管轄対象としています。この中を南北に信濃川とその支流が流れ、広大な平野を形成しています。

また、この地域は、緯度的には、イタリアやスペインなどの比較的暖かい国と変わりませんが、わが国でも有数の豪雪地帯です。

その理由は、冬に日本海を北上する暖流（対馬海流）から立ち昇る大量の水蒸気が雲となり、その雲をシベリアからの寒気団が陸地へ運び、県境の脊梁山脈にぶつかってさらに上昇し大量の雪雲に変わるためといわれています。



(国有林)

国有林は、長岡市、三条市、柏崎市、加茂市、十日町市、魚沼市、南魚沼市、南魚沼郡湯沢町、中魚沼郡津南町の 7 市 2 町に所在し、福島県・群馬県・長野県との県境の分水嶺に沿って弓状に分布しています。

面積は 10 万 4 千ヘクタールあり、関東森林管理局内では会津森林管理署南会津支署に次いで 2 番目の広さとなっています。ただし、スギを中心とした人工林の面積比率は 6% しかなく、奥地山岳地帯におけるブナ等の天然林、稜線の低木地、岩石地等が大部分を占めています。

このため、原始的な天然林などの保護・管理を目的として、自然環境の維持、野生生物の保護等に資する「保護林」（森林生態系保護地域（2 か所）、生物群集保護林（2 か所）、希少個体群保護林（3 か所））が計 7 か所、約 21 千 ha 設定されてい

るとともに、保護林を中心にネットワークを形成する「緑の回廊」（越後線、三国線の2つ）が111km、約20千ha設定されています。

また、管内の数か所に、優れたブナ林や湿原があり、自然観察や自然探勝等に利用され、多くの登山者に親しまれています。



小松原湿原



清津峡

(本署)

本署庁舎のある南魚沼市は、おいしいお米を育む水田と山並みが美しい景観を形成しているうえに、市内には高速道路のICや新幹線の駅があるなど、利便性にも恵まれ、観光で訪れる人々が多いところです(ちなみに、南魚沼市は、令和3年度には、ふるさと納税額が新潟県内でトップとなりました。返礼品は、もちろん南魚沼産コシヒカリです。)

また、以前NHKの大河ドラマ「天地人」の主人公にもなった上杉家の家老「直江兼続」が少年期を過ごした場所でもあり、市内の各所に「愛」の字をあしらった兜のモチーフが見られます。



本署庁舎 (外観)



本署庁舎 (内部)



地元の酒蔵が運営する観光施設



南魚沼市内

2 事業

(森林整備等)

中越森林管理署では、管理経営する国有林のうち、主にスギを主体とする人工林約 5,700ha を対象に、植付けや下刈り、間伐等の森林整備等を行っています。これらにより生産する丸太等は販売され、建築用材として使用されるほか、パルプ、燃料材など様々な用途で利用されています。

丸太の販売に当たっては、地域における安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大等を目的として、森林管理局長が製材工場、素材生産業者をはじめとする需要者と協定を締結した上で、計画的な販売を実施する「システム販売」にも取り組んでいます。当署では、湯沢町と連携し、民有林も加えた形で取り組んでおり、これにより、民有林材の需要先の確保にも貢献しています。



(治山・林道事業)

下流のまちを濁水や洪水から守る大谷ダム（三条市）や、首都圏への電力供給を担う二居ダム（湯沢町）を含む信濃川とその支流の上流域にある国有林では、溪流内に堆積する不安定土砂の流下を防ぐ治山事業を行っています。特に、平成23年の新潟・福島豪雨で南魚沼市、魚沼市、三条市で発生した大規模な山地の崩壊や土石流による甚大な被害に対しては、現在も継続的に治山工事に取り組んでいるところです。

このほか、令和元年の台風 19 号により被災した林道の復旧等にも取り組んでいます。



(国有林野の管理)

当署の国有林は、変化に富んだ自然に恵まれていることに加え、高速道路や新幹線により首都圏に直結しているという利便性のよさもあり、スキー・登山などの森林レクリエーションの場として利活用いただいています。また、これらに加え、奥地の水源森林を利用した電力の供給や道路の整備など 600 件近くの貸付か所があり、地域振興にも貢献しています。

貸付に伴う業務は、国民の財産である国有林を、多くの方々に快適にご利用いただくための重要な業務と位置付け、よりよい管理を心がけていきたいと考えています。



(森林環境教育)

国民の皆様には森林・林業や国有林野事業への理解を深めていただくために、森林環境教育にも取り組んでいます。中でも、毎年行っている近隣の小学校に対する森林教室では、学校林を活用しながら、季節に合わせた年4回のカリキュラムで、子供たちに森林の機能や大切さを学んでもらっており、好評を得ているところです。



森林教室 (保水力の実験)



森林教室 (植栽地の見学)

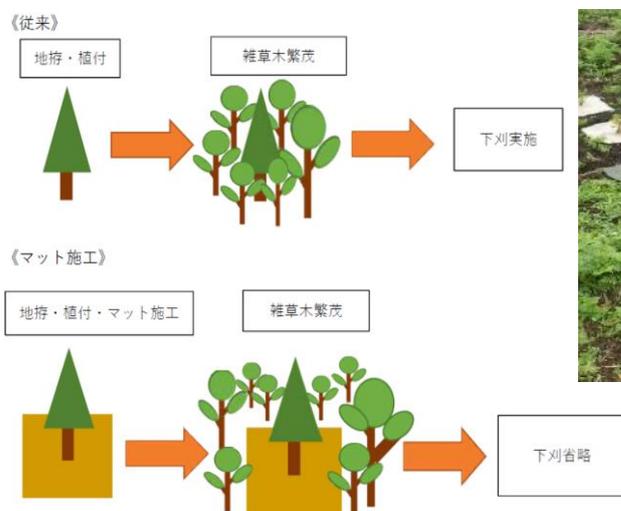
3 今後に向けて

(林業の低コスト化)

近年、木材価格の大きな上昇が見込めない中、林業の低コスト化は大きな課題となっています。

このため、国有林では、植栽、下刈り、間伐など各段階におけるコスト縮減について取り組んでいます。当署では、植栽後の間伐等の手間を軽減するため植栽時の本数をヘクタール当たり 3 千本から 2 千本に見直すほか、コンテナ苗による植栽や下刈りの省力化に取り組んでいます。

下刈り抑制のためのマットの設置などにおいては、雪による苗木の移動など豪雪地帯ならではの問題が生じないかという視点で、試験的な取り組みを行っています。引き続き、植栽木が順調に生育していけるかどうか検証してまいります。



下刈り抑制マット設置

(新たな技術の活用)

当地域は、「八海山に三度雪が降れば、里にも来る」と言われ、その後は、ときに3mを超える雪に覆われることもあるという雪の季節に入ります。ただし、道路の除雪体制は充実しており、道路には雪を地下水で溶かす融雪パイプや、除雪用の重機が充実していて主要道路は比較的快適に移動することができます。

半面、除雪を行わない林道等については、例年ゴールデンウィーク明け頃まで、車で入るのは難しい状態となります。

このため、広大な国有林での現場業務は、雪のない期間に集中して行う必要があり、素早く確実な作業が求められます。

昨今、林業の現場では、GIS、ドローン、3Dレーザ等新しい技術の活用方法が模索され、一定の効果を上げつつありますので、これらの成果をうまく取り込んで、効果的な現場管理を進めていければと考えています。



4 最後に

最後に当署管内の山でこの時期おすすめの山として、湯沢町にある平標山を紹介させていただきます。

この山は、湯沢町の苗場スキー場の近くにあり、国道17号線沿いに広い駐車場があることや、標高1984mながら1600m付近から森林限界の様相が見られ、比較的容易に高山の雰囲気を楽しむことから、多くの登山者に人気です。

また、平標山の山頂から稜線沿いにつながる仙ノ倉山までの登山道は、季節になると高山植物が楽しめるお花畑となることから、体力に余裕のある方は少し足を延ばされてもよいかと思えます。

なお、駐車場から国道17号を北に1kmほど行ったところにはある「山鳥原公園」の遊歩道では、10分ほど歩いただけで白樺の林が楽しめますので、ついでに訪れてはいかがでしょうか。

このほか、当署管内には、5つの百名山（越後駒ヶ岳、平ヶ岳、巻機山、谷川岳、

苗場山)と5つの二百名山(守門岳、中ノ岳、八海山、荒沢岳、佐武流山)があります。近年は、スキー場の夏場の活用策の一つとして、登山者向けに時間限定でリフトの営業を行うところがあり、それぞれの体力や経験に応じた選択肢が増えてきました。

新潟県では、酒造りも盛んで、「八海山」や「苗場山」など国有林内にある山の名前を冠した日本酒があります。これらの山へ登られた後には、山の思い出を肴に、それらのお酒を一杯いただくというのもお勧めします。

是非、中越の国有林を楽しんでみてください。



平標山の山頂から望む仙ノ倉山



平標山のシャクナゲ



山鳥原公園の白樺林